

48



アイヌ文様 [北海道各地]

アイヌ文様は家族ごとに独自のものがあり、それぞれの子孫に受け継がれる。その形状、図案、色彩は、美的価値が高く、文化的にも秀逸なものである。

43



オホーツク沿岸の古代遺跡群 [網走地域]

縄文からアイヌ文化まで、各時代の遺跡が分布するオホーツク沿岸。樺太・シベリアなど大陸諸文化との関係、北方古代文化の解明に果たしていく役割は大きい。

39



野付半島と打瀬舟 [別海町、標津町]

全長26kmの日本最大の砂嘴(さし)。トドワラ、ナラワラの特異な景観や、春と秋、野付湾に浮かぶ打瀬舟の風景が多くの人々をひきつけている。

49



アイヌ口承文芸 [北海道各地]

アイヌ民族の間で語り伝えられてきた、英雄叙事詩、神謡、散文説話など。サコロベ、ユカラなどと呼ばれる英雄叙事詩では、壮大なストーリーが展開される。

44



流氷とガリンコ号 [紋別市など]

冬のオホーツクでは砕氷船ガリンコ号による“流氷観光”が人気。沖合にあるオホーツクタワーでは、海底からの流氷観察や流氷下の様々な生態の観察もできる。

40



ワッカノ小清水原生花園
[北見市・小清水町]

ワッカ原生花園は、「龍宮街道」と呼ばれる日本最大の海岸草原。オホーツク海とサロマ湖に面し、春から秋には300種以上の草花が咲く。車両進入規制や漁協による植林など先駆的な試みを展開。

小清水原生花園は、オホーツク海と溝渚湖にはさまれた細長い砂丘。野鳥の到来も多い。一時期、花が衰退したが、野焼きや帰化植物の除去を行い、花のあふれる公園によみがえった。

50



サケの文化 [北海道各地]

サケと人との関りは古く、北海道にはサケ漁をしたと推定される擦文時代の遺跡もある。またサケの母川回帰は自然環境保護の指標としての役割も果たしている。

45



屯田兵村と兵屋 [北海道各地]

明治期に開拓と軍備のため北海道に配備された屯田兵。上湧別町をはじめ道内各地に兵屋が保存され、北見市の信善光寺には屯田兵人形75体がまつられている。

51



北海道のラーメン [北海道各地]

北海道の代表的な食文化として発展したラーメン。観光資源でもあり、地域ごとに特色を持ったラーメンが脚光を浴び、新たな地域づくりへとつながっている。

46



北海道の馬文化
(ばん馬、日高のサラブレッドなど) [北海道各地]

開拓の労働力でもあった農耕馬。その力を試したお祭りばん馬は、「ばんえい競馬」に発展。また軽種馬の主産地日高地方には、北海道らしい牧場風景が広がる。

41



ピアソン記念館 [北見市]

アメリカ人宣教師ピアソン夫妻の私邸として1914年に建てられた。夫妻の志の高い生き方は北見の精神文化のよりどころとして、多くの市民に親しまれている。

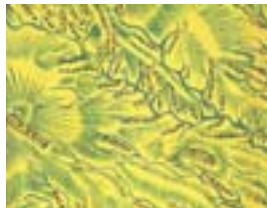
52



ジンギスカン [北海道各地]

お花見、キャンプといえばジンギスカン。発祥については諸説あるが、北海道独自の羊肉料理として発達。観光のひとつの魅力づくりとしても役立っている。

47



アイヌ語地名 [北海道各地]

北海道の地名の多くはアイヌ語に由来する。現在は片仮名や漢字で表記されるが、本来はアイヌ民族の自然と調和した伝統的生活の中から歴史的に形成された。

42



森林鉄道蒸気機関車「雨宮21号」 [遠軽町]

東京・雨宮製作所製造、初の国産11トン機関車。町は「森林公園いこいの森」に鉄道を敷設し、昭和54年から機関車を運行。この動態保存は道内では唯一のもの。